

# 文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.65 2013年9月29日発行  
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369

## 8・4平和企画「今こそ 腹の底から憲法でいこう」を終えて 我々は無力だが、我々には憲法がある

実行委員 尾崎 隆一

「平和をおもう夏の企画」の6回目の今年は、「今こそ 腹の底から憲法でいこう」と題し、8月4日にスペース京浜で行われた。

午後1時に開場すると110名の参加者は、階下の展示スペースで樋口健二氏の原発写真展その他憲法・原発関連の展示（手書きの憲法前文の掲示、手作りの原発全国地図の展示、土井敏邦監督のドキュメンタリー映画「飯館村」のDVD放映）を参観し、バザーや飲み物のコーナーにも立ち寄った。

第1部は午後2時開演の篠原久美子作・和田庸子演出のドラマリーディング「空の村号」であった。これは福島県飯館村をモデルにして原発事故の悲惨さを小学校5年生の主人公・空そらの一家や友人・隣人などを通して描いた物語である（主人公・空の夢は映画監督で、友達や妹・海うみとフィクション映画「宇宙海賊船・空号の冒険！」を作ろうとするが、悪の帝王はおらず、原発事故で村中の人々が泣き、村に平和が戻らない現実突き当たる。それでも空は夢いっぱいのファンタジー作品を作っていくと宣言するのだった）。登場人物11人・猫1匹を9人の俳優が、各人台本を持ったまま椅子の前に立ったり座ったり更に椅子の上に立ったりという動作や身振りだけで演じるという新しい手法

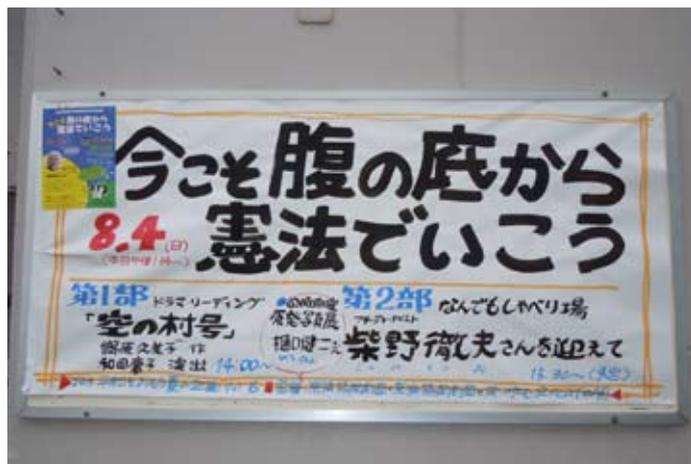
である。音楽も入り、上演開始時と終演時にクラリネットクラリネットで新相馬節が演奏され、開演鈴を鳴らす俳優に先導され全員が登場する。随所でリコーダーなどの笛や太鼓、キーボードが演奏された。音響も川のせせらぎ、大地震などを表現した。

第2部は「なんでもしゃべり場 柴野徹夫さんを迎えて」であった。事前に用意されたレジュメの中に「貴重な憲法を瞳のように大切に！ 腹の底から憲法でいこう！ これ以外に危機の日本を救う道しるべはありません！（元京都府知事・蛭川虎三）」とあった。これはまさしく今年の企画のテーマそのものであった。柴野さんは「我々は無力だが、我々には憲法がある。憲法こそ最後の武器であり、命そのものだ。」と語った。講演の後会場から質問があったが、柴野さんの話ではマスコミも裁判所も今まさに憲法を尊重する良心が問われているということであった。会場には憲法第9条ほか重要な条文を手書きした模造紙が所狭しと掲示され、講演の内容と相俟って憲法のオンパレードの観があった。

終了後、交流会が催された。「空の村号」の俳優各人の思いが語られ、再演を希望する話も出た。柴野さんから「民謡は鎮守の森の祭で歌われた心のふるさとだ」と新相馬節の再演奏のリクエストがあり、梅沢さんが心に滲みるクラリネットの音色を響かせた。

以上で今回の催しは終わったが、実行委員による準備は5月中旬に始まり、篠原久美子さんから「空の村号」上演の許可をもらいキャストが発表されたのは6月中旬で、それから1か月半の猛稽古が始まり今回の公演に漕ぎつけたのだった。この期間中に演出や俳優の有志は篠原さんと飯館村を訪ねた。俳優の板垣さんは「自分にできるのは、飯館村で感じたことを自分の役を通して観客に伝えることだ。」とレポートした。演出と俳優たちは最後の最後まで改良を重ね観客により良いものを見せようと努めた。そして本番では会場は深い感動に包まれた。——空君たちのこと、離散する村人たちのこと、美しい里山だった村のことを我々はいつまでも忘れないと。

(文化の仲間会員)



## つどいを胸に、これからを生きたい

梅沢 陽太郎

平成 25 年 5 月。川崎市某所を歩いていたら、偶然、「川崎郷土・市民劇『大なる家族』」のポスターを見つけました。どこかで見たことある画風だな…とされていると、「京浜協同劇団」の名前が目に留まりました。4 年前、かわさき演劇まつりで、私の演劇役者デビューの機会を下さった劇団。ああ、懐かしいなあ。こうして見つけたのも何かの縁だと思い、観劇に行くことにしました。私が「空の村号」に参加したきっかけは、そんな偶然からでした。

観劇後、次のお芝居の出演者を探しているという話を伺った私は、もう一度演劇をやりたいという気持ちから出演者に出演しました。今回の作品は、ドラマリーディング「空の村号」。福島原発事故に翻弄される家族を描いたもので、実話を基にした脚本です。私は、主人公の友達「剛<sup>つよし</sup>」の役を頂きました。

役が決まってから、私は夢中で演劇に取り組みました。学生である私は日々学業に追われていましたが、頭の中は演劇でいっぱいでした。稽古の間は、普段の忙しさを忘れて「剛」という一人の人間に入り込む。とても楽しく充実した時間でした。また、周りの皆さんは素人の私にも親切にして下さり、環境に恵まれたのもありがたいことでした。

ですが、充実した日々的一方で、「空の村号」の話は別世界のものだ…どこかにそんな感覚が残っていました。



樋口健二さんの写真展も同時開催

ある日、演出の和田さんから指示がありました。「台詞がない時も、無関心でいるのではなく、話を聞いて参加してください」。それから私は、台詞がない時は話の場をじっと見て、真剣に耳を傾けました。楠木家の何気ない日常、突然の東日本大震災、原発の水素爆発、村民のやり切れない思い、先が見えぬまま散り散りになる家族…。自分の中に、人々の喜怒哀楽がそのまま飛び込んでくる。今まで別世界と感じていたことを、はっきりと「現実」として受け止めることができた瞬間でした。その現実はとても重く、目を背けたいような苦しいものでした。でもだからこそ、このことを忘れてはいけぬ、伝えなければいけない。身の引き締まる思いでした。



つどいの当日は、客席がいっぱいになるほど大勢の方々にお越し頂きました。第 2 部からは、私も客席で柴野さんのお話を拝聴しました。原発問題を含め、次々と溢れてくる柴野さんの切実な訴えを聞いたのは、現代の深刻な問題を再認識する良い機会でした。

これから先、(私を含め) つどいに参加した人々は、各々の日常に戻っていきます。皆、困難を目の前に毎日を一生懸命に生きていて、今すぐこの現実アクションを起こすことは簡単なことではありません。でも、思うことがあるのです。このつどいは、明日のためにならなくても、その先の未来のためになる。その時が来るまで、今回の経験を胸に、私は毎日を懸命に生きようと思います。

最後になりますが、今回のつどいに参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。

(協力出演者)

# 空を演じて思うこと

岡野 三郎

はじめまして。「空の村号」(8月4日の「2013 平和をおもう夏の企画」第1部のドラマリーディング)で空役を演じた岡野三郎です。ひょんなことで2月から京浜協同劇団にお世話になることになった新人、とは言っても齢60、3月に定年退職自由人となりました。

今、「空の村号」の稽古日予定表を開き、改めて驚いています。キャスト発表が6月18日、演劇経験の乏しい私が何ともチャレンジング(愚?)な主役の指名を受けたのでした。嬉しいご指名ではありましたが、圧倒的な経験不足は稽古開始と共に演出の和田さんを



悩ませることになりました。見かねた藤井さんには何度も抜き稽古をしていただき、劇団のベテランや他の出演者にも様々なアドバイスを、また、二村さんはじめ「文化の仲間」の皆さんからは叱咤激励を頂戴しました。

22回の稽古を経た結果が当日お届けした「空の村号」です。もとより合格点は望めませんが、篠原久美子さんの脚本の素晴らしさや脇を固めて下さったベテラン陣、安達元彦さんの音楽などが私を引張って行ってくれました。空を演じられたことは身に余る光栄です。この感動を原点に今始まった私の演劇活動を全うしたいと思います。取りあえず10年でどこまで行けるかです。

さて、空は初監督作品でガガゾボンバー(以下ガガゾ)をやっつけましたが、満足できませんでした。最終的にはガガゾのいない映画を作る決心をしました。ガガゾは本当にいなくて良いのでしょうか。小さなガ



ガガゾ探しにかかずらっていると大きなガガゾを見失うということなのか、犯人探しをしても被害者を救うことにはならない、ということなのか。小さなガガゾが村長だとすると、一番大きなガガゾは誰なのか。ガガゾを明確にして退治するしかない、大きなガガゾをやっつけるためには、まずは小さなガガゾを退治する必要ありという声も聞こえます。戦後日本がガガゾの親分をやっつけずに温存しちまったことが間違いの元と言うのも説得力あるような。でも、我が内なるガガゾをやっつける努力をしてきたのかという自責も有り。

2011年3月11日は私にとってもエポックメイキングな事件です。原発反対を一つの意見として掲げてはいましたが、原発ムラの巧みな宣伝に、まさかあのような原発震災が日本で起こるなどとは危機感を持って考えてはいませんでした。定年退職後の後半生は何らかの形で核(原子力)をなくす運動に関わろうと決心したのです。この作品に出演できたことを核廃絶への明確な一つの道程にすべきものと決心を新たにします。その力を持つ作品です。近々どこかで再演することを目指し、少しでも飯館村、フクシマの被害者に寄り添うことが出来たら本望です。

土井敏邦監督の「飯館村」2編、園子温監督の「希望の国」が今年観た私のトップ2の映画です。(完)

(劇団員)





## 8月は私たちが平和について考える月

宝川 誠

8月4日、スペース京浜において「今こそ腹の底から憲法でいこう」がありました。第1部はドラマリーディング「空の村号」、第2部は、なんでもしゃべり場で柴野徹夫さんを迎えてのトークがありました。同時に樋口健二さんの原発写真展もありました。

8月は、6日に広島、9日に長崎の原爆投下があり、15日の終戦記念日もあり私たちが平和について考える月でもあります。

柴野さんは、フリージャーナリストで、「赤旗」記者の時代に40年前から原発を取材してきました。足の不自由にもかかわらずお越しになりお話をしてくださいました。新聞には書けない載せない、新聞の裏側や裏側にある本当の真実の話も興味深くうかがいました。原発は、原爆や水爆のアレンジ商品で、「平和利用」でソ連やイギリスから遅れたアメリカが水爆生産炉と原潜炉を拡大コピーして、今日の日米に林立する「軽水炉型原発」を作ったということです。またアメリカ

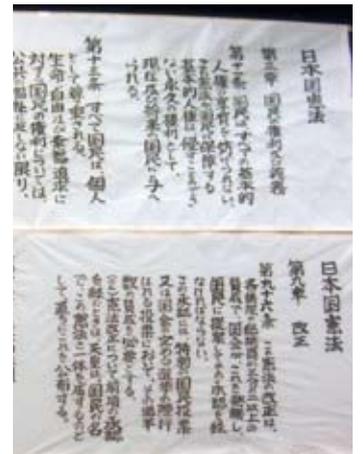


の「戦後対日支配」には、①軍事、②エネルギー、③食糧、④文化、と四つの柱があるという話をされました。

地震列島の日本で54基の原発が林立し、フクシマの事故も収束しないのに海外に輸出までしようとしています。農漁業の荒廃で若者は自衛隊か原発労働者の仕事しかないような状況です。地方自治体もお金で原発立地・誘致をさせられてきました。

柴野さんは最後に、(この催しの)主催者が自分自身で考え、(ここにおられる)あなた自身が決めることです、背後にいるものを見抜いてください、と言われ話を終えました。

柴野さんの話を聞いて、原発の今の問題点がすごく明確になりました。原発をゼロにしていかなければならないとの思いがさらに強くなりました。今後運動をしていくために大変参考になりましたし、こういう方たちがいることを心強く思いました。



会場には憲法の関連条文も…

### ジージーの呪文1

知らないって 怖いこと。  
 知らされないのは もっと怖いこと。  
 でも 知ろうともしないなら  
 それは自身の罪。  
 さらに  
 知っているのに行動しないなら  
 あなたって いったい 誰？

### ジージーの呪文2

もはや マスメディアが  
 真実を報道しないのなら  
 おまけに 学校教育までが  
 本当のことを教えてくれないなら  
 今となっては  
 私たち市民一人ひとりが  
 本当のことを ころろを込めて  
 語り広げてゆくしかありません

楚倉 哲

(文化の仲間会員)

文化の仲間 第16回定期総会開催

# 参加者は少なかったが、発言は活発で多岐にわたり、なごやかに

事務局 山木 健介

第16回定期総会を9月8日(日)、スペース京浜(京浜協同劇団稽古場)で開催しました。

総会では、財政問題、会費納入問題、会員拡大、劇団員との交流日帰り旅行、お正月お楽しみ会、ふるいちば寄席、等々意見が出ました。参加者は例年より少ない24人でしたが、発言は例年より活発で多岐にわたっていました。しかも、なごやかな雰囲気ですりとりをする総会でした。

主な発言を紹介します。「決算をみると昨年度は38名が会費を払っているが38名の会費で行事をやってきたということを考えるとすごい。未納者はどうなっているのか」「お正月お楽しみ会は来年はやらないということですが、そう簡単に旗を降ろさないで、やれる可能性があるならやった方がよい。お金が足りなければ劇団と共催でやるとか、賛助金をあつめるとか、スポンサーを探すとか」「城谷さんが9月15日にふるいちば寄席を稽古場でやるが、チラシには第1回と書いてある。2回目以降を文化の仲間ですってはどうか。稽古場を文化の砦にするという方針を掲げているのだから」「来年、日帰りのバス旅行をやるという提案だが劇団と日程調整して早めに決めてほしい」「会員拡大策の一つとしての劇団公演での会員割引はどうなったのか」「会員には色々な力を持った方がいる。その力を引き出す具体策を考えていくことが必要」などでした。



お正月お楽しみ会は予算が厳しいのですが、やめると言ったことは撤回して、総会後の第1回世話人会で話し合います。ふるいちば寄席についても城谷さんと相談しながら方向性をさぐっていきます。劇団は来年4月に『人のあかし』を再演するそうですので、日帰

りバス旅行は劇団と早めに日程調整して日にちを確定していきます。

役員については、渡辺そのこさんと塩田儀夫さんが退任し、新たに尾崎隆一さんと常名孝央さんが加わりました。代表世話人は引き続き、二村柊子・高橋明義・藤崎秀子の3氏です。

第12回総会から4年間奮闘いただいた渡辺さんの退任は特に痛手ですが、新しいメンバーで穴を埋めるように、さらにちょっと新味を加えられるように1年間やっていきます。



総会後の記念講演として、神奈川県労働者学習協会の新谷昌之副会長に「参議院選挙後の日本の現状と将来」と題して講演いただきました。

「2016年7月までの3年間は国政選挙の予定はない。選挙予定なしの3年間で安倍内閣は日本をどう変えようとしているのか。日本は1000兆円をこえる赤字をもつ国で、1997年以来ずっと労働者の賃金は下落しているが、大企業の内部留保は266兆円になる。赤字は、消費税10%・社会保障削減などで国民に押し付け。しかし、アベノミクスは必ず失敗する。」といったお話を熱く語っていただきました。わかりやすかったと、たいへん好評でした。



# 面白さの元はやっぱり稽古にあるんじゃないかな？

安達 元彦

台本と演出家との打ち合わせだけで音楽を作る人は、ぼくには驚異です。ましてや、台本もできていないのに作家との電話のやりとりだけで作曲する人の話など、想像の遥か彼方。どうしてそんなことができるのか？

長いつきあいでも互いに気心を知りあい切っているということなのでしょう？

ぼく自身の、台本に対する読解力の無さ、お芝居というものがわかっていないことからくる想像力の不足、また、作曲の技術力(量)不足など、確かだと思えます。とにかく、台本と打ち合わせだけでは、ほとんど音楽はなんにもうかばない。というか、うかばなくもないんだけど、自分でそれを信用できない。稽古場になんども足を運んで、役者さんの声(声色、喋りっぷり)や顔つきや動きを見聞きしたり、演出家とのやりとり(「ダメ出し」ということばは未だに馴染めません)を聞いたり、それから稽古場全体に漂ったり湧きあがったりする空気みたいなもの、そういうものに浸っていると、「ああ、ここにはこんな音楽が要るのかな」「この人(たち)はこんな歌がうたいたいのかな」となんとなく思えるようになってくる。そして、そのときに思いうかぶ音楽や歌は、たいてい自分でも思いがけないものです。自分ひとりでは決して思いつけない、自分の中にはないもの。「場」からもらってるんですね。

京浜協同劇団にかぎりません。これまでに約三十劇団、二百本くらい。お芝居をよくやっている作曲家に比べれば多いとは言えないでしょうが、そんなに少なくもないと思います。そして、その中で何年も何本も一緒にきた演出家も少なからず。京浜協同劇団で言えば、細田寿郎さん(「ホッさん」と呼べるようになったのは初会から何年もたって)。四十五年間に二十本ほど。でも、事情は変わりませんね。我ながら鈍(どん)といえど鈍ですね。まあ、ホッさんと気心を知りあっているという自信もありませんけれど……。

でも、ぼくとしては、先に言ったことを、ひげ目に感じるだけではなくて、積極的に面白がっている自分がいることも確かなような気がしています。ぼくは自

分のことを、お芝居通でないのはもちろんですが、お芝居好きとも思っていません。直接関わった以外のものを観歩くということはほとんどないし、その気もあんまりありません。でも、お芝居の仕事は面白いんですよね。

なにが面白いのか？ 仕上がった舞台よりも、稽古(場)が面白い？ じゃあ、そのどこが面白いのか？ 人間が面白い？ 人間と人間との関係が面白い？ 稽古場に見る役者さんたちは、毎回ちがいます。人間は日々刻々いつも新しいんだなあ、と思います。だからそういう人間同士の関係も常に動いていて新しい。必ずしもいつも愉快とはいかなくても……。台本や事前の打ち合わせでは見えなかったものが、生身の役者さんたちの動く関係の中から勃発する。ドキドキハラハラする。公演(本番)が面白いのは、お客の中で演技が変わるからです。稽古では見えなかったものが、お客の前でやることで見えてくる。役者さんたちが、お客からもらっている。お客さんに見つけさしてもらってるんですね。お客によって世界が深まり広がり、しばしば思いがけないものが立ちあらわれる。お客の力ってすごいなあと思う。だから、回を重ねるごとに、どんどん舞台は変わる。それは、ただ上手になっていくということとは違う。やはり、これも人間同士の動く関係ですよね。でも、そういうことがホントに面白いと感じられるのは、稽古を見てきているからなんです。だから、面白さの元はやっぱり稽古にあるんじゃないかな？ 人間の新鮮さ、面白さをこれほど濃密に味わえるのはお芝居だからかなあ、と思ったりするのです。



1992年(写真:長坂クニヒロ◎)

## 第36回かわさき演劇まつり

# 街の活性化めざす若者 丸尾聡さんの作、演出で

京浜協同劇団 城谷 護

今年のかわさき演劇まつりは、丸尾聡作「地蔵通りメルヘン商店街」に決まり、すでに8月下旬から稽古が始まっています。

丸尾聡さんは、演劇まつりには初登場で、作・演出を担当します。「世の中と演劇するオフィスプロジェクトM」という団体の主宰者で、「非戦を選ぶ演劇人の会」で、渡辺えり、篠原久美子などとも一緒に仕事をしている人でもあります。

この作品は、さびれていく商店街をなんとか活性化したいと立ち上がっていく若者たちや商店街の人達を描いています。歌あり、踊りありの楽しい舞台になるでしょう。

出演は「京浜協同劇団」から10人、「超電磁劇団ラニョミリINTERNATIONAL」から4人、「世の中と演劇するオフィスプロジェクトM」から2人。この3劇団のほかに公募の市民8人が加わり、賑やかな舞台となります。

ところで、今年のかわさき演劇まつり、今回で36回目となりますが、実は今から41年前の1972年に始まりました。その前年に伊藤三郎革新市長が誕生、川崎演劇協会が市に申し入れて話し合いの上、実現したものです。市民と行政が協力し合っているこの演劇まつりは、その長さや質の上で全国的にも稀有で貴重な行事となっています。



## 第36回かわさき演劇まつり

# 地蔵通り、メルヘン商店街

作・演出=丸尾 聡

2013年12月14(土)午後7時

15(日)午前11時、午後3時

会場 多摩市民館(大ホール)

料金 大人2,000円(当日2,500円) 高校生以下1,000円(当日1,200円)

全席自由席 開場は各30分前

[主催] かわさき演劇まつり実行委員会 (公財)川崎市文化財団 [共催] 川崎市 川崎市教育委員会

[企画・制作] 川崎演劇協会

[お申し込み・お問い合わせ] 川崎演劇協会 TEL. 044-511-4951 FAX. 044-533-6694

◎文化の仲間通信◎

◆川崎市民劇場第 316 回例会

劇団 NLT 公演 OH! マイママ

日程・会場

さいわい市民劇場 10月5日(土) 14:30 幸市民館

なかはら市民劇場 10月7日(月) 18:30

8日(火) 13:30 エポック中原

作 ブリケール&ラゼイグ/訳 佐藤康/演出 釜紹  
人/出演 川端楨二・木村有里・加納健次・弓澤公  
望 ほか

七転八倒の大騒動! 笑えるのに切なくなることを請  
け合い。劇団 NLT の真骨頂。

申込・問合せ なかはら市民劇場 044-455-7950

さいわい市民劇場 044-244-7481

◆演劇集団土くれ 第 62 回公演

夏きたりなば

日程 10月10日(木) 19:00 開演

11日(金) 14:00 / 19:00 開演

12日(土) 14:00 / 18:00 開演

会場 麻布区民センターホール

入場料 全席自由 大人 2000 円 (当日 2500 円)

中学生以下 1000 円

演出 石塚幹雄/舞台監督・美術 本川國雄/出演

安原昇・奥山規子・滝沢有希子・斉城薫 ほか

ある夏の日、山本家では、主婦紀子が掃除に余念がない。  
いまだ独身の妹博美が「大事な人」を連れてくるという。  
家族で博美を迎えるが、なぜか一人である。実は、  
今日連れてくる人は、ある一人暮らしの老人なのだという。  
博美はその老人のためにある計画を練っていた。  
紀子たちもその計画にのることになるのだが……。

問合せ 石塚 090-9200-9025

◆第 7 回 弾談の会びあ〜の公演

バッハ数寄

日程 2013 年 12 月 14 日 (土) 19:00 開演

会場 武蔵野スイングホール (JR 中央線武蔵境駅徒歩 1 分)

入場料 会員 2,000 円 一般 2,500 円

当日 3,000 円

ピアノ 鈴木たか子 ゲスト 安達元彦

第 1 部 パルティータ 1 番変ロ長調 BWV825 / 平均律

Ⅱ 巻より半音階的幻想曲とフーガ二短調 BWV903

第 2 部 〈安達元彦さんとともに〉フーガの技法より

二短調 BWV1080 ほか

問合せ 市原 0422-55-4767 鬼武 090-9827-9442

◆川崎太鼓仲間響 20 周年記念コンサート

祭り 心ひびかせて

日程 12 月 15 日 (日) 15:30 開演

会場 エポック中原

入場料 指定席 2000 円 自由席 一般 1500 円

自由席 小・中・高・大・障がい者 1000 円

第 1 部 海の太鼓/荒馬踊り/金浦神楽/虎舞/七夕

まつり囃子 (陸前高田) ほか

第 2 部 Get Back4 / 二足歩行/秩父屋台囃子 ほか

問合せ 吉田 080-1038-9089

kayoko@abox23.so-net.ne.jp

◆第 21 回 いちばん星コンサート

日程 12 月 23 日 (月・休) 14:30 開演

会場 エポック中原

入場料 大人 1200 円 子ども・障がい者 300 円

指揮 山寺圭子 ピアノ 梅澤文子

第 1 部 子どもの世界 (赤とんぼ/七つの子 ほか)

第 2 部 みんなで歌おう

第 3 部 いのち・平和のステージ (死んだ男の残した  
ものは ほか/公募シンガーとの合同演奏)

問合せ 照井 090-8109-3829

◆川崎市民劇場 第 317 回例会

秋田雨雀・土方与志記念 青年劇場公演 普天間

日程・会場

なかはら市民劇場 12月11日(水) 18:15

12日(木) 13:30 エポック中原

さいわい市民劇場 12月14日(土) 16:00 幸市民館

作 坂手洋二/演出 藤井ごう/出演 上甲まち子・

青木力弥・葛西和雄・吉村直 ほか

2004 年、沖縄国際大学に米軍ヘリ墜落。沖縄に生  
きる人々の心のうちを描く。

●ふるいちば寄席 大盛況!

9 月 15 日に劇団の城谷さん企画による「第 1 回川  
崎ふるいちば寄席」が開催されました。出演は腹話術  
しろたにまもる、おかしなバイオリン弾き福岡詩二、  
漫談荒木おさむ、風呂敷漫談はやのみこみ、ものま  
ね漫談名和美代児のいずれも「東京演芸協会」所属の  
プロの皆さん。劇団稽古場の近所の皆さんがおおぜい  
集まり、大盛況。楽しいひと時を過ごしました。

近所の方たちに気軽に稽古場に足を運んでもらえる  
ようになっていくことがうれしいですね。

●「ゴローちゃん」テレビ放映へ

テレビ東京 (7CH) 10 月 16 日 (水)

午後 7:55 ~ 8:00 (5 分間)

「いじめ問題」を上演し続ける腹話術師として報道され  
ます。

■文化の仲間ギャラリー■

小野寺 晃⑩

